

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会議名	第1回音更町総合計画推進委員会
開催日時	令和4年10月18日（火） 午後6時30分から午後7時30分
開催場所	音更町役場庁舎3階 特別会議室
委員出席者	岡庭委員長、林委員長職務代理、石井委員、内形委員、河合委員、河田委員、木野村委員、菅原（美）委員、菅原（博）委員、野久委員、
オブザーバ出席者	北海道十勝総合振興局地域創生部地域政策課長 範囲氏
町側出席者	小野町長、吉田企画財政部長、早苗企画課長、川村企画調整係長、杉本企画調整係主任、津久井まちづくり政策推進員
傍聴者	なし
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 音更町総合計画推進委員会委員委嘱状の交付 3 あいさつ 4 議件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第6期音更町総合計画の推進管理について (2) 第2期音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書について (3) 本年度委員会の進め方について 5 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次回のスケジュールについて
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・音更町総合計画推進委員会議案 ・第6期総合計画重点施策推進管理評価及び第2期音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>【第2期音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書について】</p> <p>委員： 推進管理評価調書についての説明資料の内容は、一つの例示ということで受け止めてよろしいか。</p> <p>事務局： お考えのとおり、これはあくまでも例示ということで示している。今後2回目から審議いただくものは、後ほど改めて提案したいと考えている。</p> <p>委員： 会議資料15ページの事務事業評価の方法で、減点方式で行うという話だったが、妥当性、有効性、効率性による自己評価において、自己評価以外に事務事業評価を客観的に、あるいは第三者的な形で評価を受けたりとか、意見を聞いたりとか、そういう手続きやプロセスはあるか。</p> <p>事務局： これまでは数値で表せる指標で判断をしてきたが、事務事業については数値では表すことは困難であるため、妥当性、有効性、効率性について総合的に各担当で判断をしていることから、これらの評価について特に外部から事務事業の評価をいただくということは今のところ想定はしていない。</p>

委員： 昨年の調書と変わっているところがあれば教えてほしい。

事務局： 調書の内容は大きく変わっている。SDGsに関連した評価については全く新たに付け加えたものであり、数値的なものについても、各分野において、実績値を用いたり、達成率や達成度を算出するというような表現に作り変えているという状況になっている。

委員： 基本目標3の出生数の数値目標1671人の根拠は何か。今の小学校一年生か、今から何年後かの小学校一年生の数が、そんなに多くないようなことを聞いたことがあり、この出生数の目標はどうかと思った。

事務局： 18ページに本町人口推計による人口推移があるが、ここでの出生率、自然増減数を基に、令和3年度から7年度までの人口出生数についての推計を算出している。2025年の自然増が1671人で、先ほどの基本目標3の出生数の数値目標と合っている。

委員： コロナ禍の1年目がこの計画の1年目だと思うが、その後の農業経営とか福祉の問題について、大変大きく変化している現実がある。その辺についてどのように対策を講じていくのか、いろんな部分を議論していただきたい

事務局： この計画を作った時はまだコロナ禍がまん延してない時であった。国のコロナ臨時交付金等を活用して、観光や福祉の分野、それから中小企業の支援、そういったものに、いろいろ工夫をしながら政策に取り組んでいる。今後の状況を注視しながら十分に対応していきたいと考えている。

委員： 今後の人口の推移がこの計画どおりにいくのは大変難しいのではないかと危惧している。コロナの対策や今の経済状況を今後の計画の中で加味して、計画を変更するなりしていかないと多分持たないんじゃないかなと思う。ぜひその点もお考えいただきたい。

事務局： 計画の中間年、5年経過後に、見直しをしていく予定である。見直しの時点で、経済状況などの国の状況等を含めて、この総合計画がどういうふうマッチしていくのかを見極めて見直しをかけていきたいと思う。

委員： 第6期総合計画の冊子29ページの農家のこと、農業の面で、この目標数値になればいいなどは思うが、今年になって飼料が大変高騰している中で、こういう数字を出していけるのか心配である。無理な数字という気もするが、どうだろうか。

事務局： 数値目標はコロナ禍の前に設定している数字である。今の状況を見ると農業に限らず、他の分野でも現実的ではないような数字もあるかと思う。コロナ禍がどこまで続くのか、収束時期等十分に見極めながら、また、推進委員の方々のご意見もいただきながら、中間年に見直しを検討したいと思う。